

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED



マザアス国際交流の幕開け

※韓国の社会福祉法人「平安の家」との交流協定(韓国にて)

- P02 韓国「平安の家」調印式
- P03 マザアス東久留米「今期の方針」
- P04 マザアス日野「新年度に向けての抱負」
- P05 マザアス新宿「地域とのつながりを深める」
- P06 施設内研究発表から
- P08 社会福祉法人マザアス新入職員オリエンテーション
- P10 介護報酬改定のあらまし
- P11 平成23年度寄付者芳名録
- P12 マザアス事業所案内・決算書・編集後記

韓国の社会福祉法人との交流

社会福祉法人マザアス
理事長

高原 敏夫



平成24年度事業計画の中期重点テーマに、新たな事業テーマとして「国際交流の推進」を挙げています。これには、予てより申し入れのあった韓国京畿道利川(イチョン)市にある社会福祉法人「平安の家」を意識してのことでした。

4月11日に金浦空港から約1時間半で利川市に到着、翌日「国際交流協定書」に、相互で署名して盛大な式典を無事に終えて、13日帰国しました。

これから交流が始まる相手法人は、高齢者福祉施設を二箇所で事業展開しており、チャムサラン専門療養院(特別養護老人ホームと同じ)入所定員170人、ダサラン療養院の定員68名でした。

訪問してみると、職員とは言葉の問題があるものの非常に親しみ易く、特に入居者の中に日本語を話せる人達が居り、交流しやすい雰囲気があつて、人材、土地等から将来に可能性を感じさせる法人でした。

むしろ、我が方に迎えた時の方が、コミュニケーションに困難なことがあるのではないかと思いましたが、

韓国側は早くも施設内で日本語の学びを始めたとか。

利川市は、お米と陶芸が有名で人口20万人余、京畿道南東部の中心都市だそうです。

最近読んだ本「韓国人の作法」の中に、「韓国文化で最も基本的で、最高のもてなしは、何といっても食事のもてなし」だ。「食事のもてなしをしながら親睦を深め、事業などの相談をするのは韓国人には最も一般的な社会活動のひとつである。」というところがあります。

現地に行ってみて納得したのですが、「もっと召し上がってください、もっと」といい続けておりました。

施設でいただいた食事も相当前から準備していたことが、想像できる内容でした。

7月4日から6日迄、社会福祉法人「平安の家」から3~4名が、来訪する予定です。

私も心を込めた準備をして、お迎えし交流を深めたいものです。



今期の方針から

高齢者福祉総合施マザアス東久留米
施設長

高原 敏夫



法人共通ですが、今年度非常に重大なテーマとして「各業所の経営の安定化」を掲げました。前年度は特別養護老人ホームで疥癬の発生と例年になく多くの退所者があり、空床を埋めるのに時間がかかって、年間利用率98.5%の目標が実績で95.5%となつた事が経営に大きく影響を与えていたので、回復に努力しなければなりません。

勿論、利用率だけでなく、経費削減にも委員会を新たに設けて、細部にわたる検討、実施をして基盤強化に努めると共に、各事業の管理者、各部門の責任者には経営マインドをもって事業推進にあたっていただきたいと考えています。

過日開催した介護保険改正についての、在宅サービス利用者家族への説明会、続いて行われた話し合いの席で強く感じたことですが、「核家族化」の進行と「個人情報の保護」は、施設周辺のコミュニティを崩壊させていることを実感しました。「介護者が倒れたら、誰に助けを求めたらよいのか」との切実な声

が数名の人からありました。

東京都の1世帯平均家族数は区部で1.98人、市町村部で2.27人となったことが報ぜられたのは、つい最近のことです。

このまま放置していたら、在宅介護では介護者が倒れたら共倒れは目に見えています。

点を線で結んで、施設周辺からでも高齢者及び介護者の「関係づくり」の為に、職員も地域にお住まいの方も、外向き思考で、実現可能なところからはじめてみませんか。



マザアス東久留米2階
～桜ヶ丘～ でーす。

2階では、4月に東所沢にある「はっぴーいちご園」へ行ってきました。行きの車の中では皆さん緊張していましたが、到着するとたくさんいちごを食べ、楽しんでいらっしゃいました。いちご狩りが好評だったので、また外出レクを企画したいと思います!!

新年度に 向けての抱負

高齢者福祉総合施設マザアス日野
施設長

衣川 輝夫



この4月でマザアスに入職1年、施設長に任せられて10カ月目を迎えようとしています。

長年医療界で働いて来ました経験が、能力不足のわたしを多少なりとカバーしてくれているのではないかと思っています。高齢者介護の現場では、自分の親を見るように心を込めてお世話するといった世界から、根拠に基づいた科学的介護の実践が叫ばれる時代に移りつつあるように思います。

またそれとともに、お預かりしていることへの説明責任を求められる時代に急速に進んでいるように理解しています。わたしがこの施設において、機会ある毎に発信しているメッセージがあります。それは「決して嘘を言わない。隠し事をしない」ということです。限られた時間、限られた人員、資源という中で、介護の質の改善を地道に目指していく施設でありたいと願つ

ています。またそれを実現するために最も大切な職員が、介護のプロとして、誇りを持って働き続けることのできる環境を作っていくたいと思います。

至らないことの多いわたしたちですが、ご訪問下さった節には、介護現場で働く職員を励ましてくだされば何よりの感謝です。



5月18日(金)日野事業所において、毎年恒例の音楽祭が開催されました。今回で第7回目となり、年々盛り上がっていきます。グループごとに課題曲を決め、ご利用者様は2ヵ月も前から、タンバリンや鈴、鳴子、太鼓などの楽器演奏を練習し、その成果を発表しました。目的を持って練習した成果を発表という形で披露した事で、達成感を味わった方もきっといらっしゃると思います。又、職員で構成するバンド(トロンボーンやフルート、クラリネット、ピアノ、ドラム)もあり、生演奏に合わせて皆で合唱する等して、笑顔あり、高揚の涙ありの楽しいひと時が過ごせました。今年からは『手のひらを太陽に』を音楽祭のテーマ曲にしています。音楽を通して、笑ったり泣いたりして、"生きている"ことを実感できる実りある音楽祭を今後もつくっていきたいです。(記:田内)

地域とのつながりを深める

地域密着型複合施設マザアス新宿
施設長
松澤 雅子



昨年7月の着任時、雑草が生い茂っていた庭に、今では、色とりどりの花が咲き誇っています。これは、マザアス新宿のご近所の方々が、土を耕し、苗を自前で持ち込んで植えて下さったものです。これから、草木は、年数を重ねる毎に根を伸ばし茎や葉を茂らせて、見事な成長ぶりを四季折々楽しませてくれることでしょう。

マザアス新宿は、開設からまる2年が経ち、100円焙煎コーヒーや来所給食、趣味活動などを通じて、地域の方が少しづつ施設を訪れて下さるようになり、顔馴染みも増えました。「つつじ」や「さくら」のご利用者は、行きつけのスーパーやご隣の飲食店があり、毎日のように地域に出かけて行きます。

施設の機能は、専門的な介護を提供する事だけではありません。介護が必要な状態になっても、自分

らしく普通の暮らしが継続できるように支援することが施設の機能です。普通の暮らしには、住み慣れた地域社会とのつながりは欠かせません。ご利用者が住み慣れたこの地域で、気軽なご近所付き合いが継続できるように、施設と地域とのつながりを深めていくことが必要となります。地域の方々に支えられるだけでなく、施設が持つ専門性を地域に還元しあわせの関係性を築いていくことを目標に、地域に根を張り3年目の歩みを進めていきたいと思います。



1月ほど前に、近隣の皆様のご好意で、施設の植え込みに花の苗を植えていただきました。

今では見事に咲き誇り、ご利用者や来苑される皆様に春の訪れを告げています。
ご協力いただいた近隣の皆様、ありがとうございました。

平成23年度 「施設内研究発表会」



マザアス東久留米施設から

毎年年度末に行われる三施設の発表会から今年はマザアス東久留米を紹介します。

去る平成24年1月27日(金)の夕刻から3回の交流ロビーで発表会が行われました。今年は4部門からの発表で、それに工夫を凝らし研究を進めていった様子が伺えました。その中から2点を紹介します。

1. あなたらしく～排泄リズムを知り、生活へのアプローチをする～【生活支援課】
2. デイサービスの環境づくり【通所サービス課マザアス氷川台】
3. おいしく安全に食べられる食形態づくり
～ミキサー食を固形化し、ゼリー食を温かく提供するための試み～【栄養課】
4. 在宅生活における残存機能を活かした援助についての取り組み
【訪問サービス課ヘルパーステーション】

栄養課

菊地 哲子

おいしく安全に食べられる食形態づくり

～ミキサー食を固形化し、ゼリー食を温かく提供するための試み～

※アクティブ福祉in東京'12で発表することになった研究課題

【今回の発表の施設またはサービスの概要】

利用者の嚥下機能が全体的に低下傾向にあり、ミキサー食やゼリー食の提供が多くなっている。嚥下機能が低下した場合でもおいしく安全に食事を食べていただけるように、ミキサー食を固形化し、ゼリー食を温かく提供するため調理方法の変更に取り組んだ。

〈取り組んだ課題〉

ミキサー食とゼリー食の調理方法を変更し、おいしく安全に食べられる食形態をつくる

〈具体的な取り組み〉

- ミキサー食とゼリー食の特徴と改善すべき点の把握
- 調理方法の検討
 - 1. 取り組みの対象を設定
 - 2. 固形化のための固形化補助食品の選定
 - 3. 試作を評価し、調理方法を決定
- 調理方法を変更したミキサー食とゼリー食を提供する
- ミキサー食とゼリー食を提供した結果の把握



〈活動の成果と評価〉

- ミキサー食とゼリー食の主菜のうち、肉と魚は固形の状態で温かく提供できるようになった。
- ミキサー食とゼリー食が普通食と同じ食材を使用できるため、味に変化が出るようになった。
- ミキサー食、ゼリー食、極きざみ食の主菜が同じものになり、盛り付け作業がしやすい。
- ミキサー食では固形化によりこぼれにくくなった。

〈今後の課題〉

- 食形態の枠組みを見直し・おいしく安全に食べられる食形態づくり。
- 効率よく調理して食事を用意する時間の短縮を図り、副食全体の固形化に取り組む。

訪問サービス課 ヘルパーステーション

渡辺 ユカリ／三富 夫美子／梅谷 優子

在宅生活における残存能力を活かした援助についての取り組み

～利用者が自分自身で選択できる生活が広がるための援助～

※全国老人福祉施設研究会議で発表することになった研究課題

【今回の発表の施設またはサービスの概要】

訪問介護では限られた時間で支援しているが、訪問時間外の生活を見据えながらの援助も重要と考えている。今回は残存機能を活かした援助の取り組みから、ヘルパーの役割を再確認した。常に信頼、安心、満足に繋がるサービスを心がけている。



〈取り組んだ課題〉

- ・在宅生活を支援する上で残存能力を見極め、やりすぎない援助を行うためのヘルパーの意識向上。
- ・環境整備を行い生活動作の幅を広げ、離床のきっかけを作る。

〈具体的な取り組み〉

【事例 Hさん、83歳、女性、独居、要介護3】

平成22年12月心不全で入院され、退院後意欲低下の為、排泄以外ベッド上で過ごされるようになった。できていた事とできなくなった事を見極め、心と身体の変化を観察し声掛け中心の援助と環境を整備することで残存機能の回復と意欲の向上に繋げて考察した。

- ディサービスの送り出し(火)(水)(金)(土) 30分
 - ・ベッド上での温タオルの使用から、洗面所での洗顔
 - ・テーブルでの朝食、服薬
 - ・歯磨きのうながし
 - ・排泄の確認と紙パンツの交換
 - ・外出時の衣類選び
- 生活支援(月)(木)洗濯、調理、買い物代行 90分
 - ・デーブルを移動し、室内的環境を整える
 - ・食事の声掛けと食後の下膳をうながし
 - ・テーブルの活用として、洗濯のたたみ
 - ・買い物代行で、必要な品を紙に書いてもらう
 - ・衣装ケースの設置と衣類の分類、整理
- 外部の講演会に出席し利用者の心理について学ぶ

〈活動の成果と評価〉

- ヘルパーの援助で、朝の生活リズムが安定し、外出の意欲に繋がっている。以前のように社会性が広がりつつあり、自宅での生活も含め日常生活範囲の拡大が見られている。
- テーブルを移動した事が、離床のきっかけとなり、テーブルでの会話と作業が増えた。排泄等の援助拒否は少なくなったが、今後も援助全般の声掛けが必要であり、環境整備においてはベッド上の整理整頓のアプローチも必要である。
- H様の思いをヘルパーの気づきにより短時間の援助中でも意志疎通ができ、信頼関係を築けたことは大きな成果に繋がった。

〈今後の課題〉

- ヘルパーの訪問時間以外の暮らしも想定しながら、残存能力の復活を目指し利用者本位の在宅生活を支援していく。
- さらに自立支援を取り組むことにより、介護予防に繋げたい。



湧泉の郷では、3月に山梨の郷土料理「ほうとう」を作りました。

デイサービスセンターマザアス氷川台 湧泉の郷

東久留米の郷土料理がうどんであり、湧泉の郷のご利用者に山梨出身の方がいることから、今回ほうとう作りにチャレンジしてみました。こねて伸ばした生地を折り重ね、丁寧に一本ずつ切って作りました。生地にあんこを入れて作った「ゆでまんじゅう」も格別の味で、大好評でした。今後も、作って楽しい、食べておいしいクッキングレクを企画していきたいと思います。



新入職員オリエンテーション



新規採用者

マザアス東久留米

- | | |
|----------|-------------------|
| 1 山口 礼華 | 生活支援課 |
| 2 木村 記之 | 生活支援課 |
| 3 加藤 あゆみ | 生活支援課 |
| 4 小澤 拓朗 | 生活支援課 |
| 5 傳 香奈江 | デイサービスセンターマザアス大門 |
| 6 吉澤 寛 | 東久留米市東部地域包括支援センター |
| 7 金子 慶子 | 東久留米市東部地域包括支援センター |
| 8 佐藤 麻理子 | 東久留米市東部地域包括支援センター |
| 9 畠山 恵 | グループホームひかわだい |
| 10 草野 好正 | 事務局 |

マザアス日野

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 大貫 路子 | 生活介護課 |
| 2 伊藤 翔子 | 生活介護課 |
| 3 平川 由樹子 | 包括看護師 |
| 4 木村 弥生 | 小規模多機能ホームみなみだいら |
| 5 池端 帆里 | 小規模多機能ホームみなみだいら |
| 6 藤田 光 | 総務課 |

マザアス新宿

- | | |
|----------|------------|
| 1 中田 裕之 | 特養 |
| 2 柴沼 まどか | 特養 |
| 3 丸山 枝里 | 特養 |
| 4 神澤 玲子 | グループホームつづじ |
| 5 黒森 大介 | 相談員 |
| 6 小林 宏行 | 特養 |
| 7 大島 かおり | 特養 |
| 8 近藤 育子 | 特養 |



1.千先理事の講義
2.地域包括センター長の働きとは（米澤氏）
3.7.消火器と消火栓の実施訓練
4.5.6.自己紹介の一コマ

今年のオリエンテーションは法人本部のあるマザース東久留米で行われました。3施設で24名の新人を向かえ4月2日（月）～4月3日（火）の丸2日間にわたり行されました。特に今年は理事の千先勉氏に「基本理念の意味」を評議員の関根一夫氏には「利用者・家族とのコミュニケーション」を特別講演していただき意義深いお話を聞くことができたことは感謝でありました。



平成24年度の介護報酬改定が行われました。 一部抜粋でご紹介します。

平成24年度 介護保険制度改正について（一部抜粋）

平成24年4月より介護保険制度が改正されております。今回の制度改正の内容について、一部抜粋してご紹介致します。

- ① 介護職員処遇改善交付金の報酬包括化について 高齢化の進展に伴い、介護ニーズが増大するなかで、私ども介護サービス事業者としてはサービス提供を担う人材の確保は重要な課題です。このような課題に対して平成21年度より導入された介護職員処遇改善交付金が、今回の制度改正により、所定単位数に加算率を乗じた単位数を加算し、介護報酬に包括化されております。
- ② 介護報酬単位数、及び地域区分単価の変更について 介護報酬額の算定にあたり用いられる介護報酬単位数、及び地域区分単価について、今回の制度改正により変更されています。
※地域区分単価とは、国家公務員の地域手当に準じ、介護報酬額の上乗せ割合を区分割したもの。

例) 新宿区における20分以上30分未満の身体介護（訪問介護）

254単位×11.05地域区分単価)=2,806円 利用者負担額は上記金額の約1割負担になります(281円)。

③ 在宅サービス提供時間の変更について

（通所介護）

3時間から4時間	⇒ 3時間から5時間
4時間から6時間	⇒ 5時間から7時間
6時間から8時間	⇒ 7時間から9時間

（訪問介護・生活援助）

30分以上60分未満	⇒ 20分以上45分未満
60分以上	⇒ 45分以上

その他介護報酬等の変更点など詳細につきましては、ご担当の相談員にお問い合わせください。



みなさまのお気持ちに 感謝します。



平成23年度 寄附者(2011.4-2012.3)

マザアス東久留米

中嶋 令子	牧野 和子	相川 好枝	石井 一恵	石川 恒夫
石川 恒夫	太田 保彦	市原 佳典	黒田 八重子	岡野 義弘
田澤 武邦	苅部 一夫	岡野 義弘	矢谷 令子	斎藤 治
石井 弘子	市原 佳典	鈴木 幸夫	鈴木 忠夫	
斎藤 治	世並 正淑			

マザアス日野

混声合唱団シェーネルエコー	品田 忠夫	高尾 八重子	佐川 カヨ子
日卉 秀雄	鈴木 嘉樹	丸山 光雄	三水 美奈子
落合 静夫	宮本 妙子	平野 信数	廣澤 勝巳
家族会	廣澤 勝巳	井上 信一	田中 枝津子
三松 美智子	宮本 妙子	三水 美奈子	桑田 正博
下坂 和孝			横田 昌子
			安田 俊子

マザアス新宿

小林 初枝	武川 博一	沼倉 陽子	林 幸一	桑原 龍男
-------	-------	-------	------	-------

敬称略(日付順)

述べご寄附者人数

48人

寄付金合計

2,350,420円



みのり保育園の子どもたちが遊びに来ました。たくさんの子どもたちの声でリビングが満たされる日です。「握手をして、自己紹介をしてくださいね」と引率の先生。子どもたちは興味深々の表情。利用者の皆さんは笑顔でそれを迎えます。大握手大会とともに、日によっては子どもたちの歌を聞いたり、披露してくれるダンスを見たり。子どもたちが手を振って帰る時、ほんのすこしの寂しさとともに、沢山の元気が利用者さんに残ります。

